リモート プレゼンスの管理

この章は、次の項で構成されています。

- 仮想 KVM の管理 （1 ページ）
- 仮想メディアの設定 （5 ページ）
- Serial over LAN の管理 （11 ページ）

仮想 KVM の管理

KVM コンソール

KVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス（KVM）の直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージ ファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージ ファイル（ISO または IMG ファイル）
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ
- ネットワーク上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- ネットワーク上のディスク イメージ ファイル（ISO または IMG ファイル）
- ネットワーク上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用してサーバに OS をインストールできます。

（注） KVMコンソールの操作には、GUI以外は使用できません。KVMコンソールの起動手順については、『*Cisco UCS C-Series Servers Integrated Management Controller GUI Configuration Guide*』を参照してください。

仮想 KVM のイネーブル化

始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **scope kvm**	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # **set enabled yes**	仮想 KVM をイネーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # **commit**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # **show** [**detail**]	（任意）仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
------------------ ---------------- --------------- ------- --------
no                 yes              0               yes     2068

Server /kvm #
```

仮想 KVM のディセーブル化

始める前に

仮想 KVM をディセーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **scope kvm**	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # **set enabled no**	仮想 KVM をディセーブルにします。 （注） 仮想 KVM をディセーブルにすると仮想メディア機能へのアクセスがディセーブルになりますが、仮想メディアがイネーブルであれば仮想メディア デバイスは切断されません。
ステップ 3	Server /kvm # **commit**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # **show** [**detail**]	（任意）仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled no
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
------------------ ---------------- --------------- ------- --------
no                 yes              0               no      2068

Server /kvm #
```

仮想 KVM の設定

始める前に

仮想 KVM を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **scope kvm**	KVM コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /kvm # **set enabled** {**yes** | **no**}	仮想KVMをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # **set encrypted** {**yes** | **no**}	暗号化をイネーブルにすると、サーバはKVM で送信されるすべてのビデオ情報を暗号化します。
ステップ 4	Server /kvm # **set kvm-port** *port*	KVM 通信に使用するポートを指定します。
ステップ 5	Server /kvm # **set local-video** {**yes** | **no**}	ローカル ビデオが [yes] である場合、KVM セッションはサーバに接続されているすべてのモニタにも表示されます。
ステップ 6	Server /kvm # **set max-sessions** *sessions*	許可されているKVMの同時セッションの最大数を指定します。*sessions* 引数は、1 ～ 4 の範囲の整数になります。
ステップ 7	Server /kvm # **commit**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 8	Server /kvm # **show** [**detail**]	（任意）仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM を設定し、その設定を表示する例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# set encrypted no
Server /kvm *# set kvm-port 2068
Server /kvm *# set max-sessions 4
Server /kvm *# set local-video yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show detail
KVM Settings:
    Encryption Enabled: no
    Max Sessions: 4
    Local Video: yes
    Active Sessions: 0
    Enabled: yes
    KVM Port: 2068

Server /kvm #
```

次のタスク

GUI から仮想 KVM を起動します。

仮想メディアの設定

始める前に

仮想メディアを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **scope vmedia**	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # **set enabled** {**yes** | **no**}	仮想メディアをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、仮想メディアはディセーブルになります。 （注） 仮想メディアをディセーブルにすると、仮想 CD、仮想フロッピー、および仮想 HDD デバイスがホストから切断されます。
ステップ 3	Server /vmedia # **set encryption** {**yes** | **no**}	仮想メディアの暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /vmedia # **set low-power-usb-enabled** {**yes** | **no**}	低電力 USB をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		（注） UCS VIC P81E カードを持つサーバに ISO をマッピングしているときに NIC が Cisco Card モードである場合： • 低電力 USB をイネーブルにすると、ISO をマッピングしてホストを再起動した後にカードがリセットされ、ISO マッピングは失われます。仮想ドライブはブートの選択メニューに表示されません。 • 低電力 USB をディセーブルにすると、ISO をマッピングしてホストと Cisco IMC を再起動した後、ブートの選択メニューに仮想ドライバが正しく表示されます。
ステップ 5	Server /vmedia # **commit**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /vmedia # **show** [**detail**]	（任意）仮想メディアの設定を表示します。

例

次に、仮想メディアの暗号化を設定する例を示します。

```
Server# scope vmedia
Server /vmedia # set enabled yes
Server /vmedia *# set encryption yes
Server /vmedia *# set low-power-use-enabled no
Server /vmedia *# commit
Server /vmedia # show detail
vMedia Settings:
    Encryption Enabled: yes
    Enabled: yes
    Max Sessions: 1
    Active Sessions: 0
    Low Power USB Enabled: no

Server /vmedia #
```

次のタスク

KVM を使用して、仮想メディア デバイスをホストに接続します。

Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームの設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # **scope vmedia**	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # **map-cifs** {**volume-name** |**remote-share** |**remote-file-path** [マウント オプション]	vMedia の CIFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 • 作成するボリュームの名前 • IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有 • エクスポートされるディレクトリに対応するリモート ファイルのパス。 • （任意）マッピング オプション • サーバに接続するためのユーザ名とパスワード
ステップ 3	Server /vmedia # **map-nfs** {**volume-name** |**remote-share** |**remote-file-path**} [マウント オプション]	vMedia の NFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 • 作成するボリュームの名前 • IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有 • エクスポートされるディレクトリに対応するリモート ファイルのパス。 • （任意）マッピング オプション

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Server /vmedia # **map-www** {**volume-name** |**remote-share** |**remote-file-path** [マウント オプション]	vMedia の HTTPS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 • 作成するボリュームの名前 • IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有 • エクスポートされるディレクトリに対応するリモート ファイルのパス。 • （任意）マッピング オプション • サーバに接続するためのユーザ名とパスワード

例

次に、CIFS Cisco IMC マップされた vmedia 設定を作成する例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server /vmedia # map-cifs sample-volume //10.10.10.10/project /test/sample
Server username:
Server password: ****
Confirm password: ****

Server /vmedia #
```

Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームのプロパティの表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # **scope vmedia**	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # **show mappings** 詳細	設定されたすべての vMedia マッピングの情報を表示します。

例

次に、設定されたすべての vMedia マッピングのプロパティを表示する例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server /vmedia # show mappings

Volume  Map-status   Drive-type     remote-share        remote-file
mount-type
------  ----------  ------------  --------------------- --------------------
-----------
Huu     OK          removable    http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_6.iso
www
Rhel    OK          CD           http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_6.iso
www
```

既存の Cisco IMC vMedia イメージの再マッピング

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # **scope vmedia**	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # **show saved-mappings**	利用可能な保存済みのマッピングを表示します。
ステップ 3	Server /vmedia # **remap** マッピング ボリューム	VMedia を再マッピングします。 （注） このコマンドの変数として保存されているマッピングのボリューム名を使用する必要があります。
ステップ 4	（任意） Server /vmedia # **show mappings**	マッピングされた vMedia の詳細を表示します。

例

次に、保存されているマッピングに vMedia イメージを再マッピングする例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server/vmedia # remap huu
Server/vmedia # show mappings
```

```
Volume           Map-Status               Drive-Type Remote-Share             Remote-File
              Mount-Type
---------------- ------------------------ ---------- ------------------------
------------------------ --------
huu              OK                        CD         https://10.104.236.99...
ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume           Drive-Type Remote-Share             Remote-File              Mount-Type
---------------- ---------- ------------------------ ------------------------ --------
huu              CD         https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia #
```

Cisco IMC vMedia イメージの削除

始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # **scope vmedia**	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # **delete-saved-mappings**	確認プロンプトで **yes** と入力します。保存済みのマッピングを削除します。
ステップ 3	Server /vmedia # **show saved-mappings**	削除されたので、保存されたマッピングは表示されません。

例

次の例は、保存されたマッピングの削除方法を示します。

```
Server # scope vmedia
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume           Drive-Type Remote-Share             Remote-File              Mount-Type
---------------- ---------- ------------------------ ------------------------ --------
huu              CD         https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # delete-saved-mappings
Purge saved mappings? Enter 'yes' to confirm -> yes
Server/vmedia # show saved-mappings
Server/vmedia #
```

Serial over LAN の管理

Serial Over LAN

Serial over LAN（SoL）は、IP を介した SSH セッションを利用して、管理対象システムのシリアル ポートの入力と出力をリダイレクトできるようにするメカニズムです。SoL は、Cisco IMC 経由でホスト コンソールに到達するための手段となります。

Serial Over LAN に関するガイドラインおよび制約事項

SoL にリダイレクトするには、サーバ コンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- シリアル　ポート A へのコンソール リダイレクション
- フロー制御なし
- SoL に設定されたのと同じボー レート
- VT-100 端末タイプ
- レガシー OS のリダイレクションが無効

SoL セッションは、ブート メッセージなどの行指向の情報や、BIOS 設定メニューなどの文字指向の画面メニューを表示します。サーバで Windows などのビットマップ指向表示のオペレーティング システムやアプリケーションが起動されると、SoL セッションによる表示はなくなります。サーバで Linux などのコマンドライン指向のオペレーティング システム（OS）が起動された場合、SoL セッションで適切に表示するために OS の追加設定が必要になることがあります。

SoL セッションでは、ファンクション キー F2 を除くキーストロークはコンソールに送信されます。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから 2 を押します。

Serial over LAN の設定

始める前に

Serial over LAN（SoL）を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **scope sol**	SoL コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /sol # **set enabled** {**yes** | **no**}	このサーバで SoL をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /sol # **set baud-rate** {**9600** | **19200** | **38400** | **57600** | **115200**}	システムが SoL 通信に使用するシリアル ボー レートを設定します。 （注） このボー レートは、サーバのシリアル コンソールで設定したボー レートと一致する必要があります。
ステップ 4	（任意） Server /sol # **set comport** {**com0** | **com1**	システムが SoL 通信をルーティングするシリアル ポートを設定します。 （注） このフィールドは一部の C シリーズ サーバだけで使用できます。使用できない場合、サーバは、SoL 通信に COM ポート 0 を使用します。 次を指定することができます。 • [com0]：SoL 通信は、外部デバイスへの物理 RJ45 接続またはネットワーク デバイスへの仮想 SoL 接続をサポートする、外部からアクセス可能なシリアル ポートである COM ポート 0 を介してルーティングされます。 このオプションを選択すると、システムは、SoL をイネーブルにし、RJ45 接続をディセーブルにします。これは、サーバが外部シリアル デバイスをサポートできなくなることを意味します。 • [com1]：SoL 通信は、SoL だけを介してアクセス可能な内部ポートである、COM ポート 1 経由でルーティングされます。 このオプションを選択した場合、COM ポート 1 上の SoL および COM ポート 0 上の物理 RJ45 接続を使用できます。 （注） comport 設定を変更すると、既存のすべての SoL セッションは切断されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /sol # **commit**	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /sol # **show** [**detail**]	（任意）SoL の設定を表示します。

例

次に、SoL を設定する例を示します。

```
Server# scope sol
Server /sol # set enabled yes
Server /sol *# set baud-rate 115200
Server /sol *# commit
Server /sol # show
Enabled Baud Rate(bps)  Com Port
------- --------------- --------
yes     115200          com2
Server /sol # show detail
Serial Over LAN:
    Enabled: yes
    Baud Rate(bps): 115200
    Com Port: com2
Server /sol #
```

Serial Over LAN の起動

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# **connect host**	リダイレクトされたサーバ コンソール ポートへの Serial over LAN（SoL）接続を開始します。このコマンドは、どのコマンド モードでも入力できます。

次のタスク

SoL セッションを終了するには、CLI セッションを終了する必要があります。たとえば、SSH 接続を介した SoL セッションを終了するには、SSH 接続を切断します。